ハワイ州マウイ郡の現状について

～視察結果報告書～

福山市

【2023 年（令和 5 年）10 月】

マウイ郡派遣期間（２０２３/９/２６（火）～２８（木）　※現地時間）

９/26（火）　１２時４５分～１６時４５分

〇タクシー（日本人ドライバー）を借り上げ，ラハイナ方面を中心に現地視察

【サトウキビ畑跡地】

【日本人タクシードライバー談】

（火災について）

・マウイ島の気候の特徴として，北・東方面は雨が降るが，西・南方面は，ほとんど降らないため，西・南方面で火災が発生すると大きな火事になりやすいと，昔から言われている。

※ラハイナ地方は，マウイ島の南西に位置している。

・ハワイは昔からサトウキビの収穫で生活していた人が多くいたが，設備投資，賃金，輸送コストなどの問題から１０年ほど前に，マウイ島最後のサトウキビ工場も閉鎖され，それに伴い，元のサトウキビ畑が雑草地になっており，これが火災を拡大させる要因になると，従前から言われていた。

【閉鎖されたマウイ島における最後のサトウキビ工場】

・ハワイの火災の特徴として，もう一つ「キアヴェの木」の存在がある。これは，木炭の原材料になる木であり，一度火が付くと，なかなか，消えない，消しにくいため，この木の存在が火災を拡大させたり，鎮火させにくくしている部分もある。

「キアヴェの木」

・ラハイナの街は，かなりの部分が焼失しているが，不思議なことに，周囲が全て焼失しているのに，ほぼ無傷で助かっているという建物もいくつかあり，その中の一つの燃えなかった教会は，「奇跡の教会」と呼ばれている。

（今後の支援のあり方について）

・ハワイは大富豪に愛されている街でもあるので，寄附金などは多く集まっている。

一例をあげると，アメリカの有名司会者のオプラ・ウィンフリーと俳優のドウェイン・ジョンソンが基金を設立し，1,000 万ドル(約 15 億円)寄付した。この基金は 18 歳以上の被災者に対して，1 人毎月 1,200 ドル(約 17 万円)を提供するというもの

※家族 4 人が 18 歳以上なら，毎月約 68 万円

当面の生活支援については，世界の他の国で被災したケースよりも充実はしていると思うが，一部の富裕層を除いて将来不安については，なかなか拭えない。

・被災者の土地を購入しようと，無神経に被災者に接触し，交渉しようとしている不動産業者もいるし，富裕層の被災者の中には，この際にと，隣の被災者に土地売買の話を持ち掛けていたりと，被災者の心情をより悲しませる状況が起きている。

・先日，ハワイ州知事が，10/8（日）からラハイナ地方を除いて，観光客の受入れを再開すると発表しており，日本からも多くの観光客に来ていただきたいと思う。

しかし，一方で「まだ早い」という被災者感情もあり，マウイの中でも意見が対立している状況である。観光客を受け入れないと経済的ダメージが大きすぎる現実と「被災している状況でバカンスを楽しむ観光客を見たくない」，「観光客に自分たちの状況を見られたくない」という被災者の心情の両方ともが理解できるため，複雑な心境でもある。

９/27（水）　１０時～１１時

〇マウイ郡長を表敬訪問

・義援金等贈呈式

※贈呈品目

義援金目録，市長メッセージ，市長個人からの義援金，

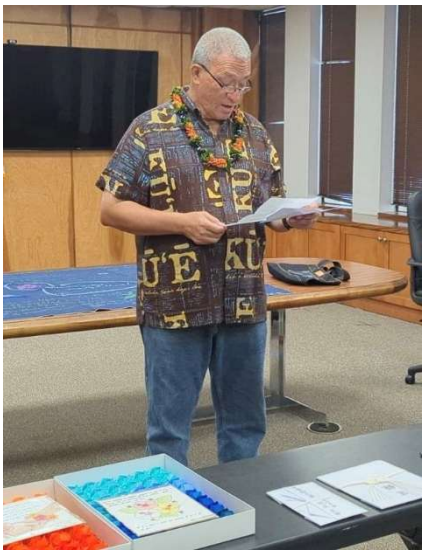
福山暁の星中学・高等学校生徒からの折りばら及び応援メッセージ，

福山市立福山中・高等学校生徒及び福山市立大学学生からの応援メッセージ

【ビッセン郡長】

多くの心あたたまるご支援，メッセージをいただき，本当にありがとうございます。

わざわざ，福山から直接会いに来ていただいたことを何より嬉しく思います。



〇意見交換

・マウイの消防の内部ルールとして，風速 25mph（風速 11m/s）の風で，原則，消防活動は停止することとしているが，火災当日のラハイナは，風速 45～80mph（風速 20～36m/s）の暴風でありながらも，活動を停止できるような火災の状況ではなかったため，消防士は，全員，果敢に活動してくれた。

・キヘイ，クラ，ラハイナと別々の場所で火災が発生した。キヘイ，クラで火災が発生していたこともあり，午後からのラハイナの火災に多くの消防士を送り込むことができなかった。マウイ郡には約 300 人の消防士が在職しているが，全員が数日間活動した。

・観光客は 1,000 人以上いたが，避難する場所がなく，空港のロビーが観光客の避難場所となり，避難してきた観光客であふれかえった。

・この火災で 97 人の方が亡くなり，その内の 8 人の方の身元がまだ分かっていない。行方不明者は，15 人で，約 2,200 棟の建物(一軒家，アパート，事業所等)が焼失した。

・現在は，約 7,600 人の避難者がいるが，体育館などの避難所は全て閉鎖し，避難者は 46 のホテルで避難生活を送っている。幸いなことにマウイには多くのホテルがあることから，早い段階で避難所からホテルへ避難者を移動させることができた。※9/26 現在

・ラハイナとキヘイについては，鎮火しているが，クラの山火事は，人が入ることができない谷あいの深い部分がなかなか消すことができない。

・消防士は，全員，数日間必死に活動してくれたが，残念なことに 1 人の消防士が，活動中，熱せられた地面に膝をついていたことから負傷(熱傷)をした。

それ以外に大きな事故は無かった。

・１０/８（日）から，ラハイナ地方を除いて，観光客の受入れを再開するため，ぜひ，日本からもたくさんの人に来てもらい，マウイの素晴らしさを知ってもらいたい。

９/27（水）　１１時３０分～１２時３０分

〇救援物資拠点施設視察

・NPO 法人が中心に運営し，それをマウイ郡がサポートしている。

・移転した元スーパーの土地・建物(未使用であったもの)を使用

・NPO 法人のスタッフ４人がボランティアスタッフ(1 日 12 人体制)を活用し，運営

・被災者は，順番に受付をし，混乱（競争等）を避けるため，施設内（店内）の人数を一定数に制限している。※店外には，２０～３０人程度の長い列があった。

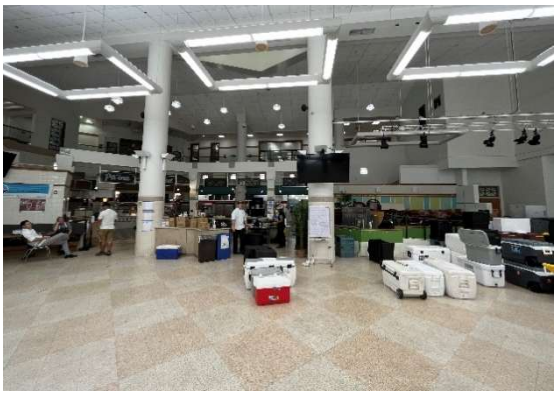
９/27（水）　１５時～１６時４５分

〇ハワイ大学(ボランティアスタッフのための弁当作り～配送する NPO 法人)

NPO 法人の行う弁当作りにボランティアスタッフとして参加したもの。

・この日は，約 700 人分の弁当作りを行ったもの。

・被災直後は，被災者用の弁当も必要であったため，約 6,000 人～7,000 人分の弁当を作っていたもの。



【ハワイ大学の食堂を利用して，ボランティアスタッフ用の弁当作りをしている】

9/28（木）　１０時３０分～１２時３０分

〇ラハイナ・シビックセンター視察

・被災者が必要な各種手続きが同一場所で行えるよう，国・州・郡がそれぞれ出張機関として設置しているもの。

（手続き・相談できる主な項目）

パスポート（国），運転免許（州），住民票（郡），助成金手続，ローン相談，仕事支援，住宅支援，賃貸相談，NPO 法人による支援制度，税金相談，学校の手続，募金（The salvation Army），法律相談など

被災したことにより，被災者は，国，州，郡に対して，それぞれ手続きが必要となる事案が数多く発生する。

しかし，被災した状況で，別々の施設にそれらの手続に行くことが不可能であるため，一つの場所で，各団体の手続が一度に出来るよう，各団体が出張事務所のような形で，シビックセンター（地域の体育館）に職員を派遣し，対応しているもの。

「災害時には，このような体制で被災者の対応を行う」と，行政機関が事前にマニュアル等を定めていたものではない。被災者にとって必要な手続が複数あり，そこに出向けないという状況があったため，「では，この手続の受付については，シビックセンターで対応しよう。」と，何か一つの手続から始まり，「それなら，他のこの手続も，ここでできたら便利になるからできるようにしよう。」という感じで，次から次へと，ここで対応する事案が増えていき，今の形になったものである。

【シビックセンターを活用し，国・州・郡それぞれが出張機関を設置している状況】

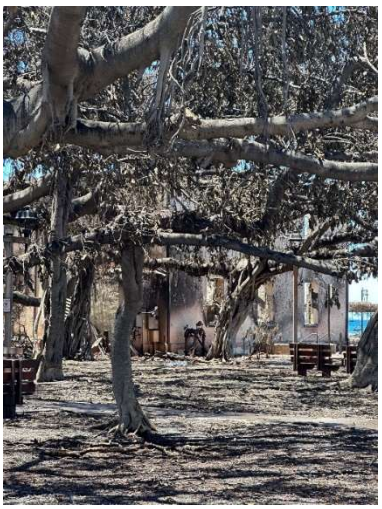
〇ラハイナ地方の火災の状況

〇ラハイナ地方の幹線道路の状況について

【ラハイナ地方の自動車専用道路】

【ラハイナ地方の街中の主要幹線道路】 ※朝日新聞デジタル記事より引用

【海岸沿い道路で渋滞に巻き込まれて焼きした車両の状況】



【マウイ島のシンボル樹齢 150 年のバニヤンツリー】

【マウイ郡視察全体を通しての所見】

今回のマウイ郡への視察については，主に次の三つの目的で実施したものである。

① 市民・各種団体からお預かりした義援金とお見舞いの気持ちを，ビッセン郡長をはじめとしたマウイ郡関係者に直接お会いし，しっかりとその思いをお届けすること。

② 現地の被災状況を確認することにより，今後の継続的な支援につなげていく。

③ 災害の発生状況や初動対応状況を確認することにより，今後の本市の防火・防災体制に役立てる。

《① 気持ちを届けることについて》

大規模火災からまだ 1 か月半を経過したばかりの時期であり，マウイ郡においては，依然，災害対応等，業務繁忙な状況ではありましたが，直接お会いし，気持ちをお伝えした際には，福山市からの表敬訪問を心から歓迎していただき，「わざわざ直接会いに来てくれたことが何より嬉しい」というお言葉をいただいた。

改めて，「直接伝える」というコミュニケーションの重要性を痛感するとともに，今回の表敬訪問の時期等については，親善友好都市として適切なタイミングであったことを確信した。

《② 今後の支援策について》

今後の支援策について，まず一番に挙げられるのは，義援金の継続である。

次に考えられるのが，「マウイ島への観光支援」である。

タクシードライバーやティガーデン氏に島内を案内してもらった際に，広大な敷地にある多くの稼働していないレンタカーの存在や，観光客をターゲットに商売を営んでいるお店が閑散としている現状を紹介され，マウイの経済の中心は観光であることの説明を受け，観光客招致の重要性を改めて認識した。

マウイ島の魅力（海・山・ゴルフ等）について，福山市が親善友好都市として，日本全国に発信し，その結果，マウイ島への日本人観光客の増加につなげることができれば，有効な支援策であると考える。

ただし，１０/８（日）から，ラハイナ地方を除いて，観光客招致が再開されるとのことであったが，被災者感情等もあることから，マウイ島観光奨励の発信をする時期については，検討をする必要があると思われる。

《③　本市の防火・防災体制の参考について》

火災の発生原因及び延焼拡大した要因については，現在，調査中であるが，今後，原因が確定したのちに，確認をしたいことを照会できる関係性を構築できたことは，一つの成果であったと考える。

加えて，国・州・郡の事務所の合同出張機関の設置や，いろいろな分野でのNPO法人の活動を直接，確認できたことは，今後の本市の防災体制の参考となるものと考える。

マウイ島への滞在は，9/26（火）～ 9/28（木）までの３日間であったが，元マウイ郡職員のティガーデン氏の案内により，関係者しか立ち入ることができない施設にも視察をさせていただき，現地に来なければ，分からないことも数多く確認でき，内容のある大変有意義な現地視察となった。

今回のマウイ郡派遣に御協力いただいた全ての方に心から感謝いたします。

以上